

科目名	授業形態	単位数	担当教員名
発達心理学	演習	1	番匠 明美
<p><b>【授業のテーマ及び到達目標】</b> テーマ:子どもの発達と保育の場における実践          到達目標:①子どもの心身の発達について理解することができる。②①を保育実践に応用して考えることができる。③生活や遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程について理解することができる。④保育現場における発達援助について理解することができる。⑤個々の子どもに応じた支援を考えることができる。⑥保護者支援について理解することができる。</p>			
<p><b>【授業の概要】</b>          人やものとの様々な関係のなかで育つ「子ども」について理解することにより、保育や教育の現場で一人一人の子どもとより深くかかわることのできる力を養う。子どもの成長発達を生活や遊びを通じた学びの課程から考える力を付ける。一人一人の発達の違いに目を向け、問題を抱える子どもに応じた援助やかかわりが工夫できる力を付ける。乳幼児期を中心としながらも、生涯を通じて出会うであろう心の問題に向き合うまなざしを身につける。保護者支援の視点から子どもの育ちを理解できるようにする。各授業ごとにテーマを決め、グループ討議等により学びを確かなものにする。</p>			
<p><b>【全体の授業計画・内容】</b></p>			
1. 子ども理解における発達の把握			
2. 個人差や発達過程に応じた保育			
3. 身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用			
4. 環境としての保育者と子どもの発達			
5. 子ども相互のかかわりと関係づくり			
6. 自己主張と自己抑制			
7. 子ども集団と保育の環境			
8. 子どもの生活と学び			
9. 子どもの遊びと学び			
10. 生涯にわたる生きる力の基礎を培う			
11. 基本的な生活習慣の獲得と発達援助			
12. 自己の主体性の形成と発達援助			
13. 発達の課題に応じた援助やかかわり			
14. 発達援助における協働			
15. 保護者への支援			
<p><b>【準備学習の内容】</b></p>			
予習のあり方:発達上の問題を取り上げているものに関心を持ち、調べてみる。			
学習のあり方:グループでの討議に積極的に参加し、自分なりの考察を深めること。			
復習のあり方:学んだ視点を実際に出会う子どもたちとのかかわりにおいて検討する。			
<p><b>【成績評価】</b></p>			
提出物(70%) 受講態度(30%)			
<p><b>【課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法】</b></p>			
小レポートに記述された質問に授業内でコメントし受講者の理解を深める。			
<p><b>【テキスト】</b></p>			
井戸ゆかり他 『保育の心理学Ⅱ 演習で学ぶ、子ども理解と具体的援助』 萌文書林			

【参考文献】

井戸ゆかり他 『保育の心理学 I』 萌文書林